

A 1 1 3 - 1 M C A 型 自 動 空 気 抜 き 弁

取 扱 説 明 書

フシマン株式会社

〒140-0011

東京都品川区東大井 2-13-8 ケイヒン東大井ビル 2F

TEL 03-5767-4200 (営業部代表)

FAX 03-5767-4181

H-4B6757a

禁油仕上

A 1 1 3 - 1 M C A 型 自 動 空 気 抜 き 弁

取 扱 説 明 書

フシマン株式会社

〒140-0011

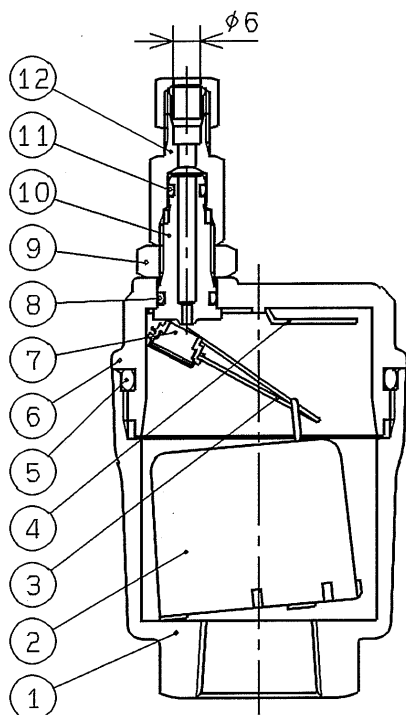
東京都品川区東大井 2-13-8 ケイヒン東大井ビル 2F

TEL 03-5767-4200 (営業部代表)

FAX 03-5767-4181

H-4B6757a

1. 構造



NO.	部品名
1	弁箱
2	フロート
3	レバー
4	レバー支え
5	Oリング
6	ふた
7	弁体
8	Oリング
9	六角ナット
10	弁座
11	Oリング
12	銅管継手

図 1

2. 作動

A 1 1 3 - 1 M C A型自動空気抜き弁は、冷温水の配管・装置に取り付けて、運転初期に内部に蓄積している空気や、運転中に蓄積してくる空気を除去するものです。

配管や装置内が空の場合はフロートは下がりきっており、弁座口は全開しています。運転を始めると、空気は速やかに弁座から排出されて、代わりに液体が弁箱に入り、フロートは浮き上って弁体が弁座口を塞ぎます。弁箱内に空気が蓄積してくると、フロートは再び下がり、弁体が開いて空気を排出します。

3. 取付け

⚠ 注意

配管・装置の最上部に垂直に取り付けてください。また、保守・点検のため入口側に止め弁を取付けてください（図 2）。

4. 水漏れの場合の処置

万一、常に水漏れがあれば弁部に ごみやスケールが付着したことが考えられます。まず、出口の銅管を外し、外部から弁座 ⑩ の穴の中に太さ 2 mm 以下の針金を差し込み、弁体 ⑦ を強制的に突きます。水と共に ごみなどが吹き出して弁漏れが止まることがあります。但し、湯の場合は危険ですから、水の場合に限ります。それでも弁漏れが止まらない場合は、次の要領で分解・点検してください。

5. 分解方法

⚠ 注意

- 5.1 最初に入口の止め弁を閉じます。
- 5.2 次に銅管を外し、銅管継手 ⑫ を外します。
- 5.3 弁座 ⑩・弁体 ⑦・フロート ②と共に、ふた ⑥を外します。
- 5.4 六角ナット ⑨を外し、弁座 ⑩を ふた ⑥の内側に押し込むと、内部部品は ふたから外れます。
- 5.5 レバー支え ④を片手で持ち、レバー ③の端をラジオペンチで挟み、レバー支えの小穴に沿って内側に押し込みます(図3)。最後にラジオペンチの平坦部でレバー ③の端を押せばレバー ③はレバー支え ④から外れます(図4)。
- 5.6 弁体 ⑦をフロート ②の溝にくぐらせながらレバー ③とフロート ②を分解します。

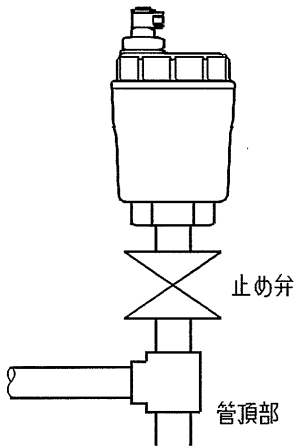


図 2

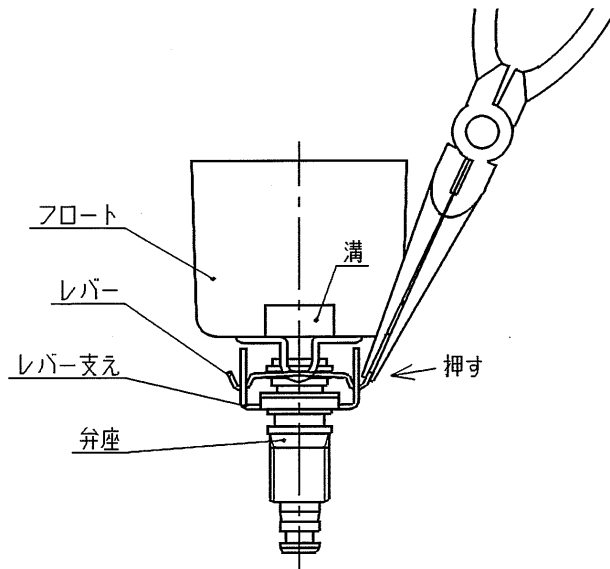


図 3

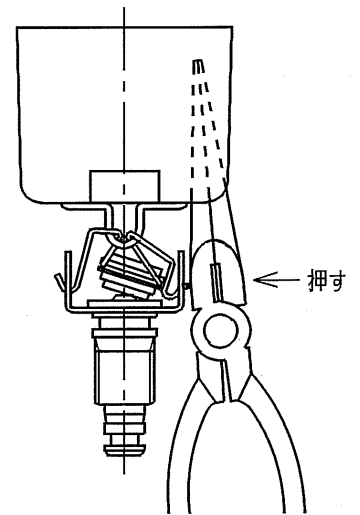


図 4

6. 点検

- 6.1 弁体 ⑦の表面と弁座 ⑩の当り面を点検、清掃します。弁座 ⑩の当り面に傷が付いていれば、細かい紙ヤスリか砥石で磨いて傷をとります。
- 6.2 弁体 ⑦の当り面に傷が付いていれば、レバー ③ごと新品と交換します。
- 6.3 Oリングは劣化していれば新品と交換します。
- 6.4 弁箱 ①、フロート ②その他シール部などを点検し清掃します。
- 6.5 Oリングにグリースを薄く塗ります。

7. 組立方法

⚠ 注意

7.1 4項と逆の順序で組み立てます。レバー③をレバー支え④にはめ込むときは手ではめしますが、無理な力を加えてレバー③を变形させないように御注意ください。レバー③は次の寸法にできております。

A・B寸法の差は1mm以内のこと。

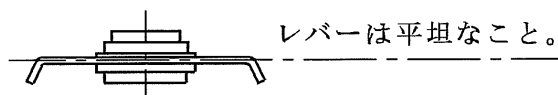
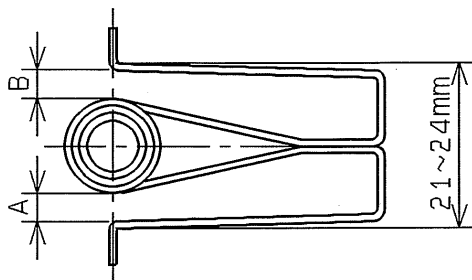


図 5

7.2 フロート②、レバー③、レバー支え④と弁座⑩を組み付けてから弁座⑩をふた⑥の穴に差し込み、六角ナット⑨を締めます。このとき、レバー支え④の4mmの穴が、ふた⑥の中央の3mmの突起に完全にはまるようにして組み立ててください。

⚠ 注意

7.3 六角ナット⑨の締付トルクとふた⑥の締付トルクは、いずれも98N・cm程度（指で締めるよりやや強い程度）で十分です。特に六角ナット⑨は強すぎる力で締めないでください。

7.4 入口の止め弁を開き、空気抜き弁に加圧します。各シール部及び弁座⑩から液漏れの無いことを確認した後、元のように弁座⑩に銅管継手を取り付けて銅管を接続します。

以 上

11.4.9			A113-1MCA型自動空気抜き弁	
EN EN			取 扱 説 明 書	
AKR				
フシマン株式会社			H-4B6757a	